

効率的な防除で 病害防除の手間とコストを削減!



病気の予防と同時防除と

ダコニール 1000

「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



70以上の作物、
およそ180の病害に登録!

ダコニール1000で発生前・初発確認後から予防散布をスタート。

以降の病気の感染および拡大を抑えます。

発生する病気や天候・生育状況等に応じて、他殺菌剤と組み合わせて体系防除しましょう。

散布 病害追加

●トマト:斑点病

適用拡大
しました

散布 作物追加

●せんぶり:さび病

常温煙霧 病害追加

●トマト:うどんこ病



無人航空機散布 作物追加

●にんじん:黒葉枯病

【無人航空機散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数*
ばれいしょ	疫病、夏疫病	8	1.6ℓ/10a	7日	5回	無人航空機による散布	5回
しょうが	白星病	16	3.2ℓ/10a	14日			
にんじん	黒葉枯病	8	1.6ℓ/10a	7日			
		16	3.2ℓ/10a				5回(種子への吹き付け処理:1回)

【常温煙霧剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数*
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33	10ℓ/10a	前日	12回	常温煙霧	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
なす		うどんこ病				4回		4回
トマト		すすかび病、葉かび病 褐色輪紋病、うどんこ病	50			3回		6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
ピーマン		うどんこ病				3回		3回

【土壌灌注剤あるいは種子消毒剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数*
稲(稲育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500~1000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000~2000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	1回	土壌灌注	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回) 6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
トマト							
レタス	ビッグベイン病	1000	1.5~3ℓ/m ²	収穫42日前まで	1回	土壌灌注	5回(土壌灌注:2回、散布:3回)
ブロッコリー	根こぶ病		3ℓ/m ²	定植時			3回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計2回)
みずな	立枯病			は種時			1回
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ/m ²	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	1回	土壌灌注	4回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計3回)
			セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ				
わけぎ			0.5ℓ/m ²				3回(土壌灌注:1回、散布:2回)
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg当り60ml	は種前		吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回(種子への吹き付け処理:1回)

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。

2023年5月末日現在

